

2013 年大学入試センター試験 【講評(速報)】 現代社会

総評 難易度は若干易化

大問数6題・解答数36個は、昨年と同じ。政治分野からの出題が減少し国際分野からの出題が増加したが、全体としては、例年通り各分野から偏りなく出題されている。時事問題・調べ学習の出題も例年通りである。出題形式としては、空欄補充問題が減少したほか、8択問題も減少した。全体的な難易度としては、若干易化している。

講評

第1問 食糧問題・環境問題（解答数8個・22点）

大学生の会話を素材としつつ、食糧問題・農業問題・環境問題など、幅広い知識が問われた。時事的な視点からの出題が中心であるが、問3の比較生産費説や問6の外部不経済など、基本的な理論の理解も問われている。問8は、調べ学習に関する出題であったが、難易度は高くない。

第2問 国債発行と財政政策のあり方（解答数5個・14点）

世界金融危機以降の対応に関するリード文を素材に、日本の財政政策・金融政策・消費者行政などを中心に出题された。第1問と同様に時事的な視点から出題されているが、要求されていることは、教科書内容の確実な理解である。

第3問 日本の政治制度と地方自治（解答個数8個・22点）

日本の政治制度を主題としつつ、問1では外国の政治制度、問5では日本の安全保障・防衛政策が問われた。地方自治に関しては、時事的な話題を取り上げつつ基本事項の理解を問うているが、地方分権一括法の具体的内容など細かい知識も問われた。

第4問 コンビニエンス・ストアと日本社会（解答数5個・14点）

コンビニの歴史をリード文とし、日本経済・アジア経済・社会思想が出題された。問1では歴史的知識が問われる一方、問4では時事的知識が問われた。問3は純粋な図表読み取り問題だが、冷静かつ迅速な分析が要求されるものであった。

第5問 青年期（解答数5個・14点）

子どもの成長を考察しつつ、問1と問5では倫理分野の理解と知識が問われた。問3は単純な図表の読み取り問題であった。問2と問4では、倫理分野から離れて、教育や地域に関する時事的知識が問われた。

第6問 人権保障の国際化（解答数5個・14点）

人権保障の国際化をテーマに、国際政治分野から幅広く出題された。時事的な設問は問4のみで、ほかは国際分野の理解や知識を問う問題であった。問3は平易だが、問1・2・5は、正確な理解と確実な知識が要求される問題であった。